

「全鍍連」 2016年 11月号 いきいき地域

全鍍連情報・国際委員 藤間 一夫（藤間精練(株) 代表取締役社長）

「インドネシア紀行」



旅行誌「じゃらん」の語源をご存じですか？

実はインドネシア語「jalan」から来ており、「道」を意味します。さらに「jalan-jalan」と二重にすると「ぶらぶら出掛ける」、「散歩する」の意味となります。

7月下旬に気の置けない仲間とジャカルタへ出掛けましたが、既に十回以上経験があり、正に「jalan-jalan」と言った感じの気楽旅でありました。悠久の歴史を感じさせる街並を残す反面、目覚ましい発展を遂げる首都周辺部、郊外に伸びる高速道路沿いには複数の工業団地が造成され、一概に語る事はできませんが、今回がジャカルタ初体験の人を昼夜アテンドしながらの珍道中です。

人生初訪問は 20 年以上前の 1994 年です。空港に降り立った時の印象は、ツーサイクルエンジンから吐き出されるオイルが焼けつく臭気とガラム煙草が発する独特な香りが入り混じり、そのうえ街の其処彼処にゴミ山があり不衛生。ですが、人が多く活気あふれる限りなく可能性を秘めた国との印象です。道路には日本車があふれ、バジャイ（おんぼろ自動三輪車）、バイクが我先にと車線が無視した走行が当たり前。その中を人が道路を縦横無尽に横断し、日本人からすると信じがたい、しかし、のんびりと時が流れる南国です。

以来 20 年あまりを経ましたが、その間、1997 年のアジア通貨危機など困難を乗り越え、大いなる発展を遂げつつあります。

前回訪問は 4 年前の 2012 年 11 月でしたが、中心部に於いて労働争議によるデモ行進が行われ、空港からホテルまで大渋滞に巻き込まれ辟易しました。結果的にジャカルタ特別州ジョコ知事（現在の大統領）が、最低賃金を 45% アップする事を認めたのです。賃金が上がり生活レベルが上がるとモラルも向上する様です。道路には整然と車線を守って走行するシーンが当たり前になり非常に驚きました。

今回は定番のアンチョール公園や博物館、独立記念塔モナスに加え、イスクティルモスク（イスラム寺院）内に入り礼拝見学を初体験しました。荘厳なモスク内に外国人異教徒を受け入れる事は知りませんでした。とかくイスラム教徒は IS の様な過激派が目立ち、ジャカルタ中心部に於いても今年初めに爆発テロがあり怖いイメージですが、本来は寛容な宗教です。国民の 90%がイスラム教徒を占めますが、日本人である私に対し、一般市民は明るく愛想が良く、少しいい加減な部分はありますが、温厚な国民性であると感じます。技能実習生として受け入れている企業も多いと思いますが、

介護士、看護師など今後、ますます日本の救世主となるかもしれません。

インドネシアを理解する上で外せない事は、親日国である事です。第二次大戦後、日本兵約2千人が彼の地に義勇軍として残り、オランダから独立を勝ち得ました。しかし、この戦いにより日本人約千人が犠牲となりました。もし日本兵が誰ひとり残らなければ、今もオランダ領であったかもしれません。

最後に、ジャカルタ旅の多くは業務目的でしょうが、査証は目的に合った内容をあらかじめ取得して渡航しましょう。近年、到着査証で工場見学や商談中に査察が入り、高額を要求されるケースがあるそうです。公共スペースであれば問題ありませんが、ご注意ください。

現在、日本ブームに沸くインドネシア。大型モール内には、回転寿司、うどん店が大人気です。訪れる度に新たな発見があり楽しい国インドネシア。ぜひ一度旅して下さい。

(藤間精練株式会社代表取締役)